

実践事例②【「わたしたちの体育」を活用した実践例】

3・4年マット運動～3つのわざを組み合わせよう～の実践を通して

日野町立日野学園 西村 直記

1 はじめに

学習指導要領には、「中学年では、器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動などの基本的な動きや技を身に付けるようにし、高学年の器械運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。」とある。

そこで、「3つのわざを組み合わせ、わざの発表会をする」というゴールを示した。1つでも多くの技を身に付けさせるために、「わたしたちの体育」とタブレット端末を用いて、自己の課題に気付けるようにした。また、互いに良いところを伝え合ったり、気付いたことをアドバイスし合ったりすることで、共に学ぶことの大切さに気付けるよう実践を行った。

2 研究の実際

(1) 1単位時間の流れの工夫

基本的に1単位時間の流れを「ウォーミングアップ→技練習→組み合わせ技練習→ふり返り」として、児童が見通しを持って活動できるようにした。単元の前半はウォーミングアップや技練習の時間を多くし、後半になるにつれて組み合わせ技練習の時間を多くし、発表会への意識と技の質を高めた。



(2) ICTの効果的な活用

①手本動画を作成し、児童がタブレット端末上で見られるようにし、技のイメージを掴むことや、「わたしたちの体育」の動きのポイントを参考にしながら、自分の動きと比べることができるようにした。

②単元を通して自分の動きを記録することで、自己の成長や課題に気付けるようにした。

③友達の動きを撮影することで、アドバイスし合う必然性を作るようにした。



3 成果と課題

【成果】

- ・1単位時間の流れをある程度パターン化し、視覚的に分かるようにしておくことで、指示の回数や時間を減らすことができ、運動量の確保だけでなく、見通しを持って活動することができた。
- ・手本動画を用いることで、「この技に挑戦してみよう」という意欲を引き出せることや、技のイメージを掴むことができ、技の習得に大きく影響した。また、手本動画と友達の動きとを見比べて、児童同士アドバイスをし合う関わり合いもできていた。
- ・3つの技を組み合わせる練習のときに、初めは教師が指定した技を行った。そうしたことで、技を組み合わせるイメージを持つことができ、バリエーション豊かな組み合わせを思いつくことができた。

【課題】

- ・運動が苦手な児童は手本動画や「わたしたちの体育」の動きのポイントを見てもなかなか動きのイメージが掴めず、体も思うように動かず、技の習得にとっても苦勞していた。「わたしたちの体育」の「やってみよう」を反復し基本動作を身に付けられるようにしたり、マット等に目印をつけるなどの支援を考えたりする必要がある。